

# 資料とふれあい、人と向き合う社会科教育への提案

—『豊見城市史 第5巻 社会と文化・教育編』の成果を学校で広く活用するために—

稲嶺 航

## 1. はじめに

### 1-1. 豊見城市史 第5巻の特徴と教材化の動機

『豊見城市史 第5巻 社会と文化・教育編』(以下、本巻)は、豊見城市の戦後の歩みを、行政資料、統計、写真、証言、子どもの作文など多様な資料を掲載し紹介している。市の歴史を知る上で重要な資料を、翻刻や写真で掲載しつつ、資料から読み取れることや、歴史を知る上での価値を解説している点が特長である。戦後の土地利用の変化、産業構造の推移、人口動態、教育や地域社会のあり方などが、具体的な資料を通して立体的に理解できる構成となっており、豊見城市の戦後史を学ぶ上で極めて有用である。本巻の編集作業を通して収集し公開する資料は、研究者や行政関係者のみならず、市民、とりわけ次世代を担う子どもたちにとっても高い教育的価値を有している。

そこで本稿では、本巻の編集成果を学校教育の場に還元し、社会科授業における教材として活用できる資料を紹介する。

### 1-2. 活用のターゲット-小学校 3・4 年生社会科

本巻に掲載された資料の教材化にあたり、主な活用対象を小学校 3・4 年生の社会科とする。

第1の理由は、学習指導要領およびその解説に示される小学校社会科の教科目標と、掲載資料の活用に高い親和性があるためだ。指導要領解説<sup>1</sup>では、「社会的な見方・考え方」を用いた考察、構想や、説明、議論等を学習活動取り入れ、社会の形成者として課題を追究したり解決したりする資質と能力の基礎を育てることが目標とされている<sup>2</sup>。ここでいう社会的な見方・考え方とは、社会的事象を位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して捉え、比較・分類・総合したり、人々の生活と関連付けたりすることである。また、教科学習のなかで、新聞や公的機関が発行する資料など、多様な資料を活用する学習も求められている<sup>3</sup>。

豊見城市内の学校に通う児童が、市内や校区内の社会的事象を理解する際、本巻に掲載された、戦後の土地利用や産業に関する年次的統計、市勢要覧などの刊行物、戦後の子どもの作文などは、空間的・時間的変化と人々の営みの相互関係を具体的に捉える手がかりとなる。

第2の理由は、3・4年生の社会科の学習内容との対応関係である。3年生では、市町村の地形や土地利用交通、公共施設、産業、防犯・防災などを学ぶ単元が設定されている<sup>4</sup>。また4年生では、地域の発展に尽くした先人が、開発、教育、文化、産業、医療などで果たした業績を学ぶ単元が設定されている<sup>5</sup>。これらの内容は

1 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編 平成29年7月』

2 註1前掲 8-10頁

3 註1前掲 8頁

4 註1前掲 「第1節 第3学年の目標及び内容」31-47頁

5 註1前掲 「第2節 第4学年の目標及び内容」48-69頁

本巻に収録された資料と密接に関連しており、本巻で紹介する資料は地域の具体的な事象を児童に提示し深い学びを可能にする教材として有効である。

### 1-3. 教材化における視座

本巻を教材化するには、2つの視座を重視したい。

1つ目は、児童自身が資料を基に考察し、議論し、判断する力を育むことである。今日は、情報技術の発達により、インターネットや人工知能を活用すれば、情報を容易に入手・加工できる時代となった。一方で、情報の真偽を見極め、情報を価値づけ社会活動に生かす力の重要性が一層高まっている。その基礎を育てるためには、児童が学習課題を意識し、自ら資料を読み解き、検証・考察する学習が不可欠である。そこで、資料を活用する際は、情報を提供する材料として利用するだけでなく、児童が考察し、情報の加工や整理、説明、議論するための材料として位置付ける。

2つ目は、歴史を消費する物でなく、主権者を育てる教育の材料とする視点である。歴史の調査や研究の目的は、地域の顕彰や観光資源の発掘であるとする言説は少なくない。地域の顕彰や観光資源化という営み自体を否定するものではないが、教育活動において、歴史を観光資源創出や、地域に情緒的な愛着を抱かせるための資源として捉え消費するだけでは不十分だと感じる。児童は将来、主権者として地域社会を運営する担い手となる存在である。歴史を単なる資源としてではなく、地域社会を理解し、よりよい社会を構想するための材料であると位置付け、資料をもとに検証、考察する力を育てることが社会科の教育においては重要な課題である。

#### ① 航空写真の比較



米軍撮影航空写真(1947年撮影)

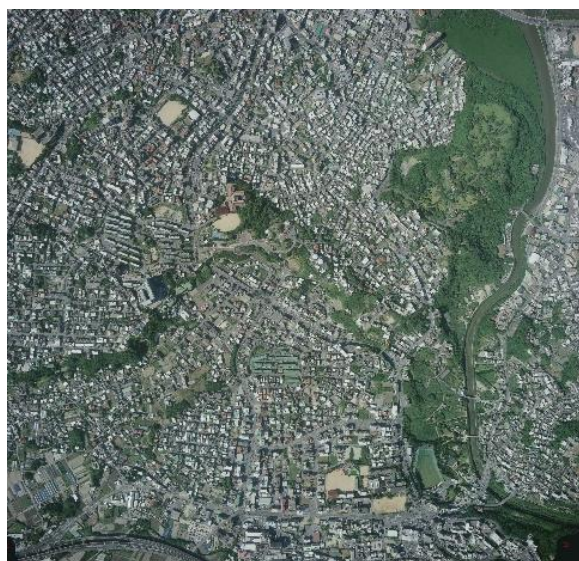
## 2. 活用事例の紹介——具体的活用の提案

本稿では、小学校3・4年生社会科で活用可能な資料を、「導入で利用できる資料」と「展開で利用できる資料」の2つに分けて紹介する。

### 2-1. 導入で利用できる資料

導入は、授業や学習単元の冒頭に位置付けられ、学習内容への関心や意欲を高め、学習の見通しをもたせる役割を担う。導入で利用する資料として有効なのが写真、グラフ、表である。

例えば、① 終戦直後の1947年と2010年の航空写真を比較することで、市域の土地利用や市街地の広がりやを直感的に捉えることができる。1947年のモノクロの航空写真をよく観察すると、畑の中に点在する集落や大きく蛇行した饒波川がみられる。2010年の航空写真では、写真に写る地域の全域が宅地化し、饒波川の流



国土地理院撮影の航空写真(2010年撮影)

路は直線的に改修されている。一方で主要な道路の位置は大きく変化していない事も確認できる。これら写真から読みとれる情報を、教師が明示するのではなく児童が観察して気が付き、さらには市の土地利用、人口、交通、公共施設の変化と、どのような関わりがあるか検討することで、社会的な見方・考え方の獲得に繋がる。

同様に、②、③、④はいずれも、市の歴史を知る上で高い価値をもつ写真である。

② 1960年の渡橋名に設置された灌漑用風車である。写真をよく見ると、英語の書かれた風車の尾翼や、高所に設置されたタンク、水を撒くスプリンクラーが確認できる。

写真を観察し、その後に写真に写った背景を説明すれば、児童は米軍から提供された灌漑用風車によって畑に水を撒いていることや、市内ではかつて米軍向け野菜の栽培が盛んだった事が理解できる。更に、当時の農業にとって灌漑施設の整備が大きな課題だったことに着目すれば、戦後の市内の農業がどのような課題をもち、農地の改良によって課題を克服してきたか、その歴史を考える出発点にもできる。

③ 1975年の真玉橋の朝の混雑を写したものだ。自動車の往来が盛んになる一方、歩道が整備されず、歩行者の通行には危険を伴った状況が写っている。交通事故や自動車の渋滞といった、今日も続く交通の課題が、1970年代から既にあった事を知ることができる。

さらに、なぜ真玉橋が混雑していたのか、真玉橋はどんな位置にあるのか、真玉橋の渋滞を解消するため、1970年代以降にどのような施策がとられたのか、といった点を児童が検討すれば、道路整備と市内の都市化との関連性について考えることができる。

これら写真の教材化は、写真を児童に見せて説明するだけでなく、児童が写真から情報を読み取り、主体的に考える活動を行うことで、教材としての真価を発揮する。

写真に何が写っているのか、現在の市内のどこで撮影されたのか、なぜ撮影されたのか、写真に写っている場所は現在どんな風景になっているのか、といった問いを投げかけ、児童自らが考えるきっかけを与える学習である。さらに、フォトランゲージ<sup>6</sup>の手法を用い、グループで話し合う教材とすることにより、児童が互いに持っている多様な捉え方や考え方に触れさせ、共感性と自身の固定観念にとらわれない批判的思考を育てることも期待できる。

また、今日撮影された写真を利用し、児童が普段見ている風景はどのような歴史的経緯によって作られたかを考えることも社会的な見方・考え方を育てる上で有用である。

② 1960年の渡橋名の灌漑用風車



③ 1975年の真玉橋の交通渋滞



<sup>6</sup> 写真やイラストを教材として使い参加者が自由に読み解き、グループで話し合うことで、文化や社会、他者への理解を深める活動。

④ 近年に撮影した饒波のビニールハウス群は、長嶺小学校周辺で児童が普段見ている風景だ。なぜ多くのビニールハウスが設置されたのか、何を栽培しているのか、いつからこれほど多くのビニールハウスがあるのか、児童が疑問を持つことによって、疑問を解決するための学習へ繋がられる。市の農業の歴史、農業政策、栽培が盛んな作物の種類を学ぶ動機付けとなる。



④ 饒波のビニールハウス群

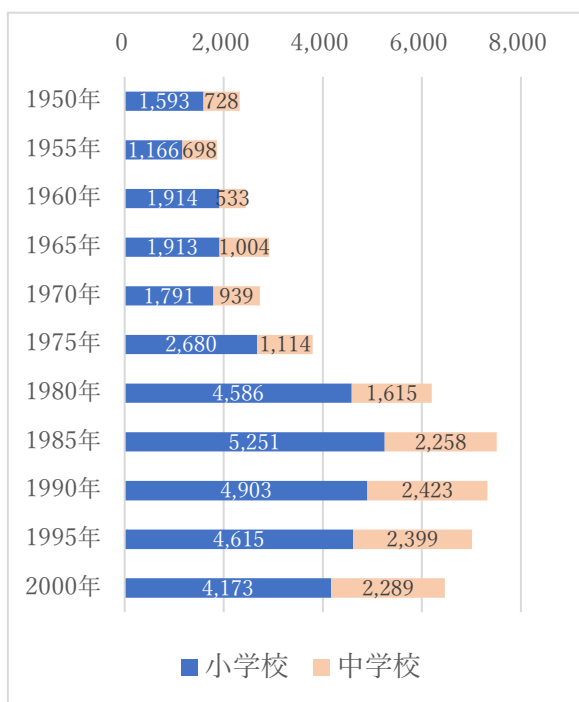
写真だけでなく、統計資料を元に作成したグラフも導入で使う教材となりえる。⑤ 市内小中学校の児童生徒数の推移や、⑥ 上水道の給水人口と普及率は教材として利用しやすい資料である。

どの時期に児童生徒が増えているか、なぜ増えたのかを考えることで、1970年代に多くの住民が市内へ転入した歴史を学ぶことができる。また、⑤と⑥の資料にはどのような関係があるか検討すると、多くの住民が生活するために、上水道の整備が必要であったという事を考察できる。

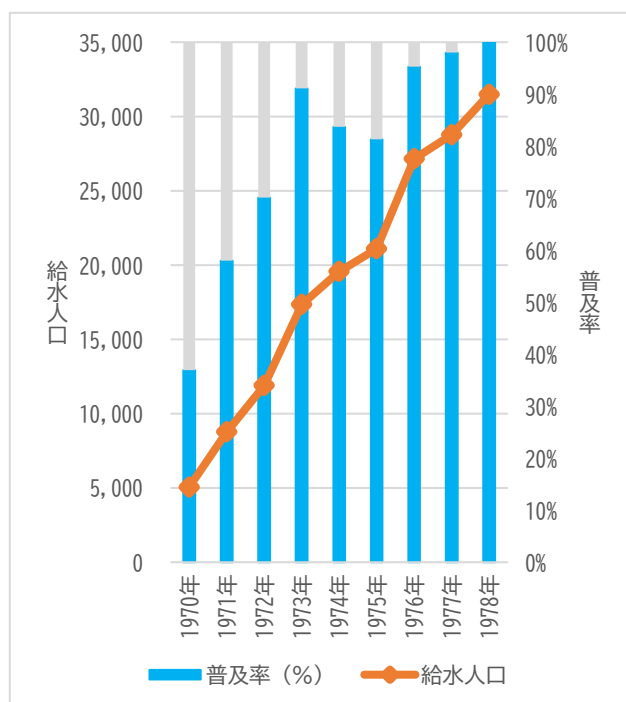
グラフも写真と同様、単に提示するだけでなく、児童に発問して、自ら考える材料に利用することが、社会的見方考え方を獲得する上で望ましい。また、グループ学習を行って児童間で意見を交換し、グループで検討した事を学級に発表する活動にも利用できる。

写真や統計資料は、豊見城市教育委員会文化課が非常に多く所蔵しており、児童の生活に近い地域の物学習する単位と関連が深い物を選択できる可能性が高い。学習内容に合わせて、有効な資料を選択すれば授業や単元の学習意欲を高め学習課題を児童が理解するための導入として活用できる。

⑤ 市内小中学校の児童生徒数 (人)



⑥ 上水道の給水人口 (人) と普及率 (%)



## 2-2. 展開で利用できる資料

展開は、学習の中心部分であり、課題に対して思考・活動・表現を通して理解を深める段階である。本巻には主体的な学びにつなげやすい資料が多く収録されている。特に統計資料は児童がグラフ化し、その成果を読み解き検討する学習に適している。

⑦ 作物種別別作付面積は、近年に市内耕地がほとんど野菜畑になっている事を読み取ることができる。一方で原資料では面積を表す単位に a(アール)が用いられており、3年生の児童には、面積を想像したりグラフ化したりすることが難しい。

### ⑦ 作物種別別作付面積の統計と単位グラフの例

【元資料】市内の作物種別別作付面積(a)

年次/種別	全作物	サトウキビ	野菜類
1974年	51,916	19,364	29,641
1985年	42,016	16,643	23,125
1990年	50,630	12,731	35,482
2000年	35,465	2,121	32,028

【加工】市内の畑は学校何個分あるか(学校面積=240a)

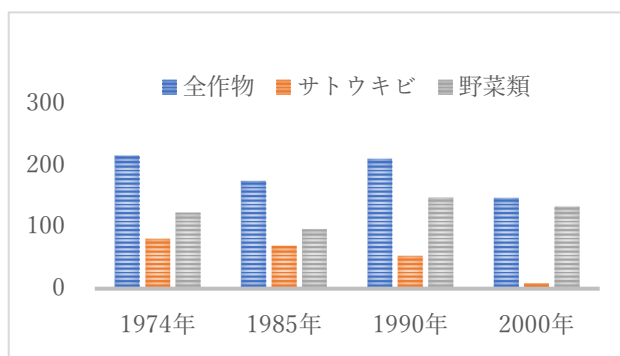
年次/種別	全作物	サトウキビ	野菜類
1974年	216	81	124
1985年	175	69	96
1990年	211	53	148
2000年	148	9	133

学校の面積は国土地理院地図GISマップを利用し長嶺小学校の面積を測定した

そこで、教師が統計資料をあらかじめ加工し、児童にとって身近な面積(例えば学校や公園、商業施設など)を単位に用いた表を示す必要がある。児童が広さを実感できるよう、GIS を用いて算出した学校敷地(〇a)との比較を示すなどの工夫が必要である<sup>7</sup>。また資料の加工は表計算ソフトを利用することで、数値の単位を容易に変換できる。

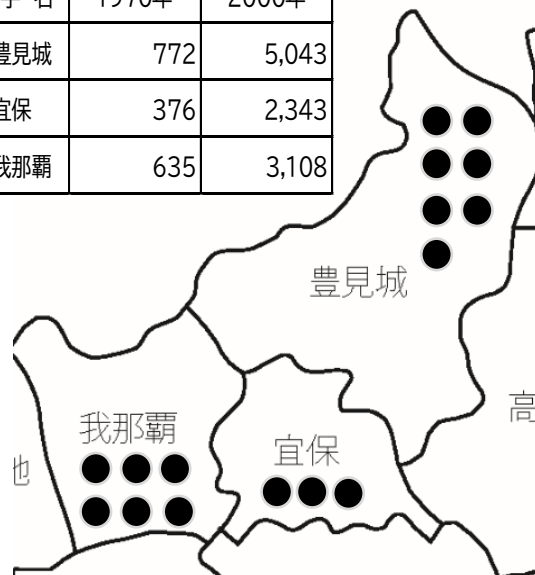
児童が広さを実感できるよう、GIS を用いて算出した学校敷地(〇〇平方メートル)との比較を示す

統計資料を利用し行政区の白地図とともに利用することで、情報を簡単に地図化する学習に活用できる。⑧ 字別人口の統計資料と、大判に印刷した行政区白地図を用意すれば、児童自らが人口分布のドットマップ<sup>8</sup>を作成できる。人口 100 人ごとにシールを 1 枚



### ⑧ 字別人口の統計と行政区白地図 (人口 100 人ごとにシールを貼ろう)

字名	1970年	2000年
豊見城	772	5,043
宜保	376	2,343
我那覇	635	3,108



<sup>7</sup> 教師が児童にとって身近な場所や施設の面積を求める際は、国土地理院がインターネット上で公開する、GIS マップ の機能を活用すれば簡単に測定できる。GIS マップや距離の測定方法は以下のサイトから確認できる

地理院地図 / GSI Maps | 国土地理院 : <https://maps.gsi.go.jp/>

GIS マップを利用した面積の測定方法 : [https://www.gsi.go.jp/CHIRIKYOUIKU/gsimaps\\_5.htm](https://www.gsi.go.jp/CHIRIKYOUIKU/gsimaps_5.htm)

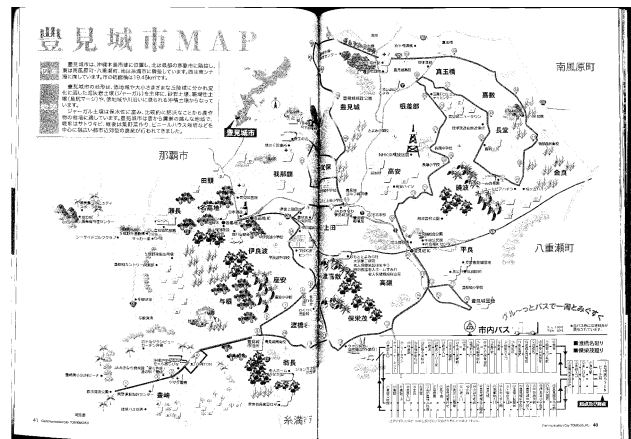
<sup>8</sup> 地図上に配置した点(ドット)で、人口分布や事件・事故の発生日点を視覚化する主題図

ずつ貼れば、1970年と2000年の字人口を比較し、市内のどの字で人口の変化が大きいのか、どの地域に人口は偏在しているのかわかる。そこから、なぜ人口の偏在がみられるのか、といった疑問を持たせ、道路や公共施設などとの関連を考えることもできるだろう。また、児童が地図から情報を読み解く技能や、統計資料を用いた情報を地図化する技能を身に着けることもできる。

⑨ 市政要覧に掲載された地図には、市内の主要な建物や公共施設がイラストにわかりやすく示されている。1979年と2011年の地図を比較すると、約30年間に学校や社会教育施設、新興住宅地や大型商業施設が数多く建設され、役所の位置が移動したことを読み取れる。さらには、市内の公共施設の偏在や、主要な道路の配置、道路と住宅地の位置の関係性などを検討できる。そのうえで、「1979年以降に新しく作られた施設や宅地は市内のどこに多いか」、「なぜ、学校は市の北側に多いのだろう」といった発問をグループで討議し発表する、あるいは、2011年の地図へ、近年新しくできた学校や商業施設を書き込んで発表する学習にも活用できる。⑧の字人口の資料と組み合わせることで、人口の偏在と公共施設や住宅地、道路の関係を検討する資料ともなるだろう。

証言や子どもの作文を読み解く学習を通して、統計や地図では捉えきれない人々の思いや生活の実態に触れることが可能となる。⑩ 座安小学校5年生の作文には、1972年の本土復帰を境に、日本本土の専売制度が沖縄でも適用され、製塩業が出来なくなった家族の様子が記されている。作文は都市化や本土復帰など市の大きな変化が、住民の生活にどんな影響を与えたか考えるうえで重要である。本土復帰によって家業の製塩ができなくなることが、当事者たちの暮らしをどのように変えるのか、当事者たちはどんな心情だったか、児童が考え共感できる。本巻には公共事業に関わった村長や役所職員や、市の特産物を製造する人々の証言も掲載されており、作文と同様、人々の生活の変化や思いが読み取れる。

### ⑨市勢要覧の地図



### ⑩座安小学校5年生の作文

(1972年)5月14日のことでした。わたしが、学校から帰ってみると、祖母が、母とさびしそうな声で、何か話合っていました。わたしは、何かしらと思って、祖母に開くと、  
「沖縄が日本復帰するために塩がつかれなくなったよ。」と、祖母は説明してくれた。

長い間、祖母の仕事として現在までつづけてきた、製塩業ができなくなると、祖母がかawaiiそうになった。祖母は塩づくりの仕事が大すきで、塩をたいている時、の姿は生き生きとはりきっていた。その祖母から塩たき、のしごとかなくなると、どんなにさびしいことでしょう。

1973年 座安小学校文集「しば」より抜粋

### 2-3. 高学年、中学校での資料活用

本稿では、小学校 3・4 年生の授業で利用する事を前提として資料を提案したが、高学年と中学生で歴史や地域の事象を学ぶ単元にも本巻の資料は活用できるだろう。例えば、歴史や社会制度、産業について学ぶ単元では、市議会の議事録や、市長の市制方針、市の刊行物を教材化することで、日本全体の歴史や社会の動き、産業の推移と、豊見城市の地域的な事象を関連付け学ぶことができる。

### 3. 単元計画と資料の結び付け

次は社会科のカリキュラムと対応させて、利用できる資料を紹介する。カリキュラム編成の例として、文部科学省が作成した、小学校第3学年社会科の単元「市の様子の移り変わり」指導計画<sup>9</sup>を参考に、「市の様子の移り変わり」の単元計画と活用できる資料をまとめたものが、表⑪『「市の様子の移り変わり」単元計画と利用できる資料』である。

学習指導要領解説の中「市の様子の移り変わり」の単元目標は、市や人々の生活の様子が時間経過に変化したことを理解し、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現することとされている。また、聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめることも学習課題に位置付けている<sup>10</sup>。表⑪で示す学習内容は、本巻の資料を効果的に利用し、学習指導要領解説で挙げた目標を達成することを目指した。土地利用、人口交通、公共施設の変化を学ぶ各展開では、以下 4 つ学習活動を順に進めていくことを提案する。

- (1) 写真やグラフを提示し、児童へ発問して学習課題を明確にする。
- (2) 資料を提示し、市の様子が変化した時期や地域、変化の状況を児童自らが調べ確認する。
- (3) 資料から明らかになったこと整理し、市の様子の変化が、他の事象や人々の生活の変化とどのように関連しているか検討する。
- (4) 分かった事を年表に記載し、単元全体の学習内容を総合的に確認する

これらの学習活動を各 2 時間程度でこなしていくことを想定する。上記学習を行うことによって単元目標を達成しつつ、社会科の教科目標である社会的な見方・考え方の獲得も期待できる。

なお、同単元の中に位置づけられた「昔の道具の変化」については、豊見城市歴史民俗資料展示室を見学することで、昔の道具の実物を見る事ができる。

また単元のまとめとして、児童が学んだ土地利用や人口などの変化から、未来の市の様子を予測し、市にとって今後どのような施策が必要であるか議論し提案する学習や、年表・壁新聞を作成する学習が想定される。これら単元全体の学習活動は、将来の主権者を育てるうえでも非常に価値の高い学びとなり得る。

<sup>9</sup> 文部科学省 HP 小・中学校向け主権者教育指導資料「主権者として求められる力」を子供たちに育むために

(1) 第 3 学年「市の様子の移り変わり」

[chromeextension://efaidnbmninnibpcjpcglclefindmkaj/https://www.mext.go.jp/content/220922-mxt-kyoiku01-000025143\\_4.pdf](chromeextension://efaidnbmninnibpcjpcglclefindmkaj/https://www.mext.go.jp/content/220922-mxt-kyoiku01-000025143_4.pdf)

<sup>10</sup> 註 1 前掲 44 頁

#### 4. 学校現場で歴史資料を活用するための課題

前述の通り本巻に収録された多様な資料は、社会科の教材として高い価値を有している。しかし、これらを学校現場で日常的に、かつ効果的に活用するためには、教師が必要な資料を簡単に見つけ、教材研究は教材化に教師が大きな負担をかけず利用できる環境の整備が必要である。

ここでは、資料活用の可能性を高めるための、2つの課題と解決方法を検討したい。

##### 4-1. デジタルアーカイブの拡充と普及

第1の課題は、資料へのアクセシビリティの向上である。本巻の成果を教育現場へ還元するためには、デジタルアーカイブ(以下、DA)の整備と拡充と利用の促進が鍵となる。

DAの最大の利点は、時間や場所の制約を受けず、誰もが資料を閲覧・利用できる点にある。現在、文化課では収蔵写真などをオンラインで公開する取り組みを先行させているが、今後は統計資料、市刊行物、地図さらには本稿で提案したような具体的な教材案についても、順次DAへと登録していく必要がある。

また、システムの整備と並行して、教師へ利用を促す支援も重要である。教師がDAを利用し、授業で利用できる資料を確認できるよう、DAやDAで閲覧・取得できる資料の活用に関するワークショップや研修会を継続的に実施し、DAを活用した教育活動を、市内の小中学校へ浸透させていくことが求められる。

##### 4-2. 教師の多忙化への対応と専門的支援

第2の課題は、教師の教材研究における負担軽減である。資料を教材化するには、地域の歴史や民俗に関する専門知識が求められる。しかし、業務が多忙を極める今日の教育現場において、教師個人が独力で市史を読み込み、社会科の单元ごとに専門的な背景を理解する時間の確保は極めて困難である。

この解決策として、行政と学校の連携強化が求められる。具体的には、市の歴史に精通した文化課職員が教師による教材化を専門的見地から伴走支援する体制の構築である。学芸員等の知見を授業設計に組み込むことで、教師の負担を抑えつつ、質の高い教育実践を創出できる。

さらに、そうして生まれた教育実践の記録や、作成された教材などをDA上で共有・蓄積していくことも重要だ。過去の優れた実践事例を容易に参照・再利用できる環境が整えば、教材研究の効率化が図られ、地域資料を活用した授業の普及が期待できる。市の歴史資料を学校教育で効果的に活用するために、次世代の主権者を育てる教材とするためには、こうしたアーカイブ化と人的支援の両輪によるバックアップが不可欠である。

⑪「市の様子の移り変わり」単元計画と利用できる資料

展開	学習活動	資料
単元の導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・航空写真（1946年・2010年）を見比べる。</li> <li>・1946年の航空写真で集落、道路、畑を色分けさせ、2010年の航空写真と比較する</li> <li>・1947年は市域の大部分が畑で、畑の中に集落が点在していたことに気づかせる</li> <li>・2010年の航空写真では畑がほとんど見られなくなり、市街地広範囲に広がったことを確認する</li> <li>・なぜ豊見城市内は大きく変わったのか検討する（グループで互いに意見を共有する）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・航空写真（1947年、2010年）</li> </ul>
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回色分けした1947年航空写真を再度観察する</li> <li>・1947年と2010年に加え1970年代の航空写真も提示し、それぞれの航空写真から畑、集落（宅地）、山林が土地の何割ほどを占めるか予想を立てる。</li> <li>・年次別有租地のグラフを見せ、航空写真を元に予測した割合と比較させる。</li> <li>・グラフと航空写真を見比べ、いつ頃から市内の土地利用が大きく変わったか検討させる。</li> <li>・なぜ土地利用が変化したか予想してみる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・航空写真（1947、1973、2010年）</li> <li>・土地利用状況のグラフ</li> </ul>
人口	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイトルを隠し「市内年次別人口のグラフ」と「市内小中学校の年次別生徒数のグラフ」を見せ、グラフの                      主題は何か（何の数を示すグラフか）想像させる（豊見城市の事象で在ることは伝える）。</li> <li>・グラフの主題を告げ変化が大きい時期を確認する。</li> <li>・学校周辺を観察し（校舎屋上などから実際に見るか、航空写真など）で人口が多い地域を予想する</li> <li>・行政区地図に1970年と2000年の人口に応じたシールを貼る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年代別小中学校の児童数グラフ</li> <li>・年代別市人口のグラフ</li> <li>・字別の人口（1970年・2000年）</li> <li>・市内行政区の白地図2枚</li> </ul>
道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1975年真玉橋の混雑時の画像を見せる</li> <li>・1975年になぜ交通渋滞や交通事故が深刻になったか検討する</li> <li>・1946年の航空写真に写る主要な道路に色をつけ1970年第の航空写真と比較する。</li> <li>・1970年代の主要な道路の位置が1946年と一致していることに気づかせる。</li> <li>・1970年代の道路の路面の色を見せ、舗装されているか確認させる。</li> <li>・村道路の舗装状況を示す統計を見せる。</li> <li>・道路の整備と人口増加（既習）の関係を検討させる。（人口と道路の整備はどちらが先か？）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1975年交通渋滞の写真</li> <li>・年代別村道の舗装率</li> <li>・自動車の普及状況を示すグラフ</li> <li>・村道の整備状況に関する資料</li> </ul>
公共施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までに記録した簡易年表を見て（土地利用の変化・人口増加・道路の舗装）の時期の確認                      →児童数名の年表学級で見て、互いの記録方法の違いを見ても良い</li> <li>・土地利用の変化、人口の増加、道路の整備・舗装、これら事柄は、どちらが一番早く起きたか検討→グループごとに予想を発表する</li> <li>・市内小中学校の年次別生徒数のグラフを見せ、児童生徒数が増加すると、学校の数はどうなるか予測</li> <li>・1979年と、近年の市勢要覧に掲載された地図を比較</li> <li>・市内学校の開校年と位置を示す地図を確認し自分の通う学校は何年開校したか確認する</li> <li>・学校や役所、社会教育施設は1979年以降、どこに設置されたか確認</li> <li>・簡易年表に学習事項（各学校の開校時期）を記録させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年代別小中学校の児童数グラフ</li> <li>・市政要覧の絵地図</li> <li>・市内小中学校の開校年と位置を示す地図</li> </ul>